

国史跡をめざす真念庵・石造物調査を開始！

南国市文化財審議会会長濱田眞尚氏が本市を訪問調査

今月 25～27 日（火～木）の 2 泊 3 日の日程にて石造物研究者で南国市文化財審議会会長・濱田眞尚氏（元高知県立民俗資料館副館長）が来市し、市野瀬地区に所在する真念庵境内とその周辺道約 0.6 km の石造物悉皆調査（中世～近世石造物）を実施した。

この調査は、本年度と来年度 2 か年にわたる国庫補助金に基づく文化財調査である。四国遍路において独自性ある打ち戻りの中継地点・真念庵の歴史的・文化的価値とその景観が広がる周辺遍路道約 0.6 km を国史跡となることをめざしての取り組みである。

境内及び遍路道の中世から近世にかけての「供養塔」「遍路墓」「丁石」「手水鉢」「写し霊場」などの石造物を一基一基、苔落とし・拓本・縦横奥行きを計測・写真撮影・銘文の読み取りを丁寧に行っていた。今回の調査で今まで不明であった点のヒントとなる発見もあった。その詳細は、後に報告書で発表したい。

なお、市文化財審議会東近伸会長・いの史談会山岡遵会長・いの史談会産田孝理事・南国史談会唐岩淳子副会長・あしずり遍路道保存会弘田之彦会長らの皆様には、一連の作業について無償にてボランティアを賜りました。

雨の中の調査でもあり、濱田眞尚氏をはじめ、ボランティアいただいた皆様に深く感謝申し上げます。



（左）真念庵堂舎前の手水鉢の拓本を取る唐岩南国史談会副会長とその写真を撮る濱田南国史談会会長。（右）堂舎南側の石造物に記された銘文を読み解くために粉を表面に塗り銘文を読み解く様子。



←「文化十五年戊寅（1818）三月三日」の銘が刻まれている石仏。「作州英田郡江見村行者坂木屋佐吉」の名前が見て取れる。境内にある「写し霊場」自体は、彼の供養のために建立されたと伝えられる。

南国史談会・唐岩淳子副会長が立体的な石造物を見事に平面に拓本で写し取る様子。はじめに霧吹きで石造物に少量水分を散布し、その後に濡れタオルで石造物全体を覆い、湿らせることがポイント。

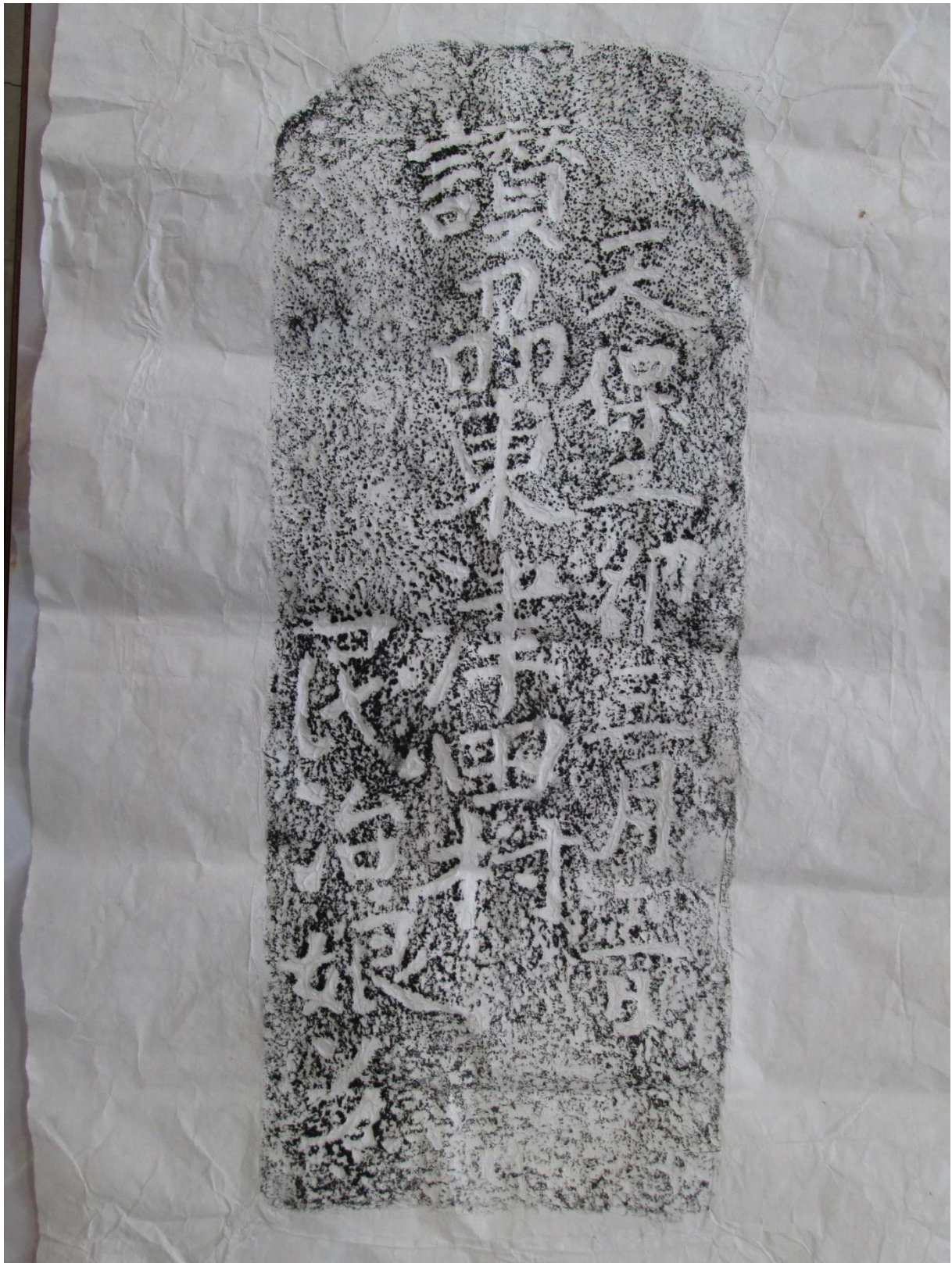
最近では、写真を取り、3Dプリンターで銘文を読み解く科学的な方法もあるが、やはり昔どおりの拓本は、それらにはないアナログの温かさと価値がある。



←真念庵境内にある「写し霊場」は、法印實道が地域住民の協力を得て成し遂げた事業である。實道は、廃仏希釈で衰退した真念庵の復興に努め、明治二十五年（1892）にこの市野瀬で没している。2列で石仏は並び、全長12.8メートル、1列目は1～44番とプラス1体の本尊石造物、2列目は45～88番の本尊石造物、計89体の石造物が並ぶ。



真念庵のことを市文化財審議会東近伸会長は、「近世から近代に至る多くの歴史資料を所蔵しており、まさに遍路文化のタイムカプセルといえる」と『土佐史談 269号』論文で述べられている。このような貴重な文化財が集積する市史跡・真念庵を国史跡をめざし、その歴史的・文化的価値づけを市民一丸となり、広報していきたいと考える。



↑生涯学習課市史編さん室・吉本工心職員が真念庵で作成した境内遍路墓の拓本。

土佐清水市教育委員会・生涯学習課市史編さん室管理/著作権許可申請資料カード

第	章	節	No,	担当市史編集委員名	
資料種類	写真・資料・地図・絵図・その他 ()			使用料	要(円) ・ 不要
資料名	() 頁				
申請機関 又は人物	所在場所・連絡先				

【申請資料画像（Jペグ形式）添付/コピー可】